

平成27年度 ユネスコ活動費補助金  
 グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業  
 企画書

H27.4.22  
 修正版

注1) 本企画書の枠の大きさは記入分量に応じて適宜変更いただいて構いません。  
 注2) 記入に際しては、末尾の「記入にあたっての留意点」も併せて参照ください。

※整理番号（事務局記入欄）	申請代表者 職名	三重大学学長
申請代表団体名 国立大学法人 三重大学	申請代表者 氏名	駒田 美弘 印
申請部署名 地域ECOシステム研究センター	申請責任者 職名 (部署の長)	センター長
	申請責任者 氏名	朴 恵淑 印
所在地 〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577		
事務連絡先 職名：人文学部 事務長 氏名：北山 繁樹 住所：三重県津市栗真町屋町1577 TEL：059-231-9192 FAX：059-231-9198 E-mail：hum-l@ab.mie-u.ac.jp		

## I 基本情報

<b>1. 補助事業名称</b> <b>三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム</b> 開始年度： 新規 ・ <b>2年目</b> ・ 3年目			
<b>2. コンソーシアム構成団体（代表団体含む）</b>			
構成団体名	所属・役職	担当者名	連絡先 (住所、電話、FAX、Eメール等)
国立大学 三重大学	地域 ECO システム研究センター長	朴 恵淑	三重県津市栗真町屋町1577 TEL:059-231-9157
三重県教育委員会	教育長	山口 千代己	三重県津市広明町13番地 TEL:059-224-2946
桑名市教育委員会	教育長	伊藤 茂一	三重県桑名市中央町2-37 TEL:0594-24-1236
鈴鹿市教育委員会	教育長	長谷川 正人	三重県鈴鹿市神戸1丁目18-18 TEL:059-382-7617
松阪市教育委員会	教育長	東 博武	三重県松阪市殿町1340番地1 Tel:0598-53-4312
名張市教育委員会	教育長	上島 和久	三重県名張市鴻之台1番町1番地 TEL:0595-63-7882
津市教育委員会	教育長	石川 博之	三重県津市広明町13番地 TEL:059-229-3292
四日市市教育委員会	教育長	田代 和典	三重県四日市市諏訪町1番5号 TEL:059-354-8236
亀山市教育委員会	教育長	伊藤 ふじ子	三重県亀山市本丸町577番地 TEL:0595-84-5072
伊勢市教育委員会	教育長	宮崎 吉博	三重県伊勢市小俣町元町540番地 TEL:0596-22-7875
いなべ市	市民部長	出口 正則	三重県いなべ市北勢町阿下喜2633番地 TEL:0594-72-3946
四日市市	環境部長	須藤 康夫	三重県四日市市諏訪町1番5号 TEL:059-354-8188
亀山市	環境産業部	西口 昌利	三重県亀山市本丸町577番地 0595-84-5068
伊賀市	人権生活環境部長	山下 豊	三重県伊賀市上野丸之内116番地 TEL:0595-20-9105
伊勢市	環境生活部長	坂本 進	三重県伊勢市岩淵1-7-29 TEL:0596-21-5540

鳥羽市	環境課長	清水 敏也	三重県鳥羽市鳥羽三丁目1-1 TEL : 0599-25-1112
志摩市	生活環境部長	岡 茂	三重県志摩市阿児町鶴方3098-22 TEL : 0599-44-0001
尾鷲市	環境課長	仲 浩紀	三重県尾鷲市中央町10番43号 TEL : 0597-23-1700
熊野市	環境対策課長	栗須 廣也	三重県熊野市井戸町796 TEL : 0597-89-2804
日本ユネスコ協会連盟	組織部	尼子 美博	東京都渋谷区恵比寿1-3-1 TEL : 03-5424-1121
三重県ユネスコ連絡協議会	理事長	谷岡 経津子	三重県津市広明町13番地 三重県教育委員会社会教育・文化財保護課社会教育班気付 TEL : 059-224-3322
亀山ユネスコ協会	会長	明石 直大	三重県亀山市江ヶ室2丁目4-37 TEL:0595-82-0010
名張ユネスコ協会	会長	辻本 進	三重県名張市鴻之台1番町1番地 TEL:0595-63-7892
松阪ユネスコ協会	会長	池村 進	三重県松阪市駅部田町1662 TEL0598-26-3711
三重県地球温暖化防止活動推進センター	事務局員	岡野 朝雄	三重県津市河芸町上野3258番地 TEL:059-245-7517
亀山市総合環境研究センター	事務局長	坪田 公兒	三重県亀山市布気町442番地 TEL:0595-84-3611
海の博物館	館長	石原 義剛	三重県鳥羽市浦村町大吉1731-68 TEL:0599-32-6006
斎宮歴史博物館	館長	伊藤久美子	三重県多気郡明和町竹川503 TEL: 0596-52-3800
四日市公害と環境未来館	副館長	岡田 良浩	三重県四日市市諏訪町1番5号 TEL : 059-354-8065
伊勢湾再生推進会議	国土交通省中部地方整備局広域計画課係長	佐野 貴之	愛知県名古屋市中区三の丸二丁目5番1号 TEL: (052)953-8127
生活協同組合コープみえ	組織運営部	中島 幸代	三重県松阪市大口町字北堀田273-2 TEL: 0598-51-4411
三重県環境整備事業協同組合	理事長	木室 啓治	三重県津市広明町112番地の5 TEL: 059-225-5479
三重県総合博物館	館長	布谷 知夫	三重県津市一身田上津部田1234 TEL: 059-228-2283
三重県松阪地域防災総合事務所	主幹	佐野 茂樹	三重県松阪市高町138 TEL:0598-50-0530
株式会社光機械製作所	代表取締役社長	西岡 慶子	三重県津市一身田中野8-1 Tel:059-227-5511

万協製薬株式会社	代表取締役 社長	松浦 信男	三重県多気郡多気町五桂1169-142 TEL: 0598-37-2088
中部電力株式会社	三重支店長	片岡 明典	三重県津市丸之内2-21 TEL: 059-226-5555
シャープ株式会社 亀山工場	環境安全推 進センター	稲垣 秀明	三重県亀山市白木町幸川464番 TEL: 0595-84-7666
シャープ株式会社 三重工場	環境安全推 進センター	米川 浩	三重県多気郡多気町五佐奈1177番 地の1 TEL: 0598-38-1221
株式会社東産業	代表取締役 社長	木室 浩一	三重県四日市市野田1丁目8番38号 TEL: 059-332-2323
ユニグループ・ホ ールディング株式会 社	執行役員 グループ環 境社会貢献 部部長	百瀬 則子	愛知県稲沢市天池五反田町1番地 0587-24-8000 (代表)
三重テレビ放送(株)	報道制作部	山口 未翼	三重県津市渋見町693-1 TEL: 059-223-3360
伊勢新聞社	営業局	鈴木 肇	三重県津市本町34-6 TEL: 059-224-0003

### 3. 補助事業による活動地域（市町村単位）

三重県の全市（14市が対象）

ユネスコスクール関連自治体：津市、鈴鹿市、名張市、熊野市

ユネスコスクール登録申請中／関連活動自治体；いなべ市、桑名市、四日市市、亀山市、伊賀市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、尾鷲市

4. ESDコーディネーター	
氏名	池村 進
所属・役職	三重大学地域エコシステム研究センター 事務長兼コーディネーター 松阪ユネスコ協会会長 前三重大学 国際環境教育研究センター支援室 非常勤職員
ESDの実践、国際交流、企業との連携等の経験	元公立学校教員であり、元高田短期大学研究員として、科学遊びの観点から「ASEAN諸国の子どもたちの遊びの実態に関する調査報告」等の研究実績を有している。また、10年以上途絶えていた、松阪ユネスコ協会（2013年3月～）の復活に尽力し、同協会会長を務める。また、平成26年度まで、三重大学国際環境教育研究センターに非常勤職員として勤務し、「ESD in 三重2014」他の活動に携わった。
本事業での活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産官学民の構成団体との連絡業務</li> <li>・ 三重県・三重県内自治体の教育委員会との連携業務</li> <li>・ ユネスコスクールの支援業務</li> <li>・ ユネスコスクール登録支援業務</li> <li>・ ユネスコスクール・パートナーシップ委員会の支援業務</li> <li>・ コンソーシアムの構築・運営・管理</li> <li>・ グローバル人材育成プログラムの構築</li> <li>・ 専門家（学識経験者等）の選定と調整</li> </ul>
氏名	上島 和久
所属・役職	名張市教育委員会 教育長
ESDの実践、国際交流、企業との連携等の経験	元名張市立小学校の校長、中学校の教頭を歴任しており、現在は名張市の教育長として教育の現場に携わっている。名張市は、県内のユネスコスクール登録校の半数を占めており、教育委員会としてもユネスコ活動を推進している。
本事業での活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユネスコスクールの支援業務</li> <li>・ ユネスコスクール登録支援業務</li> <li>・ ユネスコスクール・パートナーシップ委員会の支援業務</li> </ul>
氏名	坪田 公兒
所属・役職	亀山市総合環境研究センター 事務局長
ESDの実践、国際交流、企業との連携等の経験	亀山市は三重大学と連携し、「亀山市民大学キラリ」を開設し環境・文化・健康を縦横に連携した学問を体系的実施しており、事務局長として、積極的に関わっている。また、この市民大学にはシャープ亀山工場等との連携も行っており、地元企業との連携も推進している。
本事業での活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産官学民の構成団体との連絡業務</li> <li>・ 三重県・三重県内自治体との連携業務</li> <li>・ コンソーシアムの構築・運営・管理</li> </ul>

氏 名	伊藤 久美子
所属・役職	斎宮歴史博物館 館長
ESDの実践、国際交流、企業との連携等の経験	斎宮歴史博物館の館長として、県内外に対して歴史・文化を発信し、同博物館における学童保育の受入や地元企業との連携を積極的に推進している。また、元三重県環境安全部次長として、地域環境・NPO・生涯学習等の行政に携わっていた。
本事業での活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産官学民の構成団体との連絡業務</li> <li>・ 三重県・三重県内自治体との連携業務</li> <li>・ コンソーシアムの構築・運営・管理</li> </ul>

氏 名	谷岡 経津子
所属・役職	三重県ユネスコ連絡協議会 理事長 四日市市立博物館館長、前四日市大学総合政策学部教授
ESDの実践、国際交流、企業との連携等の経験	四日市大学短期大学部において長年、保育士、幼稚園、小学校教員の養成に携わっており、全国幼年美術の会委員としても子どもの絵を通して人間陶冶や創造性の育成を図ってきた。また、三重県ユネスコ連絡協議会の理事長として、三重県におけるユネスコ協会の設置と活性化、および連携・発展に努めると共に、三重県景観条例作成の審議会委員の一人として、三重県という地域の個性と特色を活かした良好な景観づくりなど、県民文化の向上に取り組んでいる。
本事業での活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三重県内のユネスコ協会との連携業務</li> <li>・ ユネスコスクールの支援業務</li> <li>・ ユネスコスクール登録支援業務</li> <li>・ ユネスコスクール・パートナーシップ委員会の支援業務</li> </ul>

## 5. 事務局の体制

※代表団体を中心とした事務局の体制についてできるだけ具体的に記述ください。

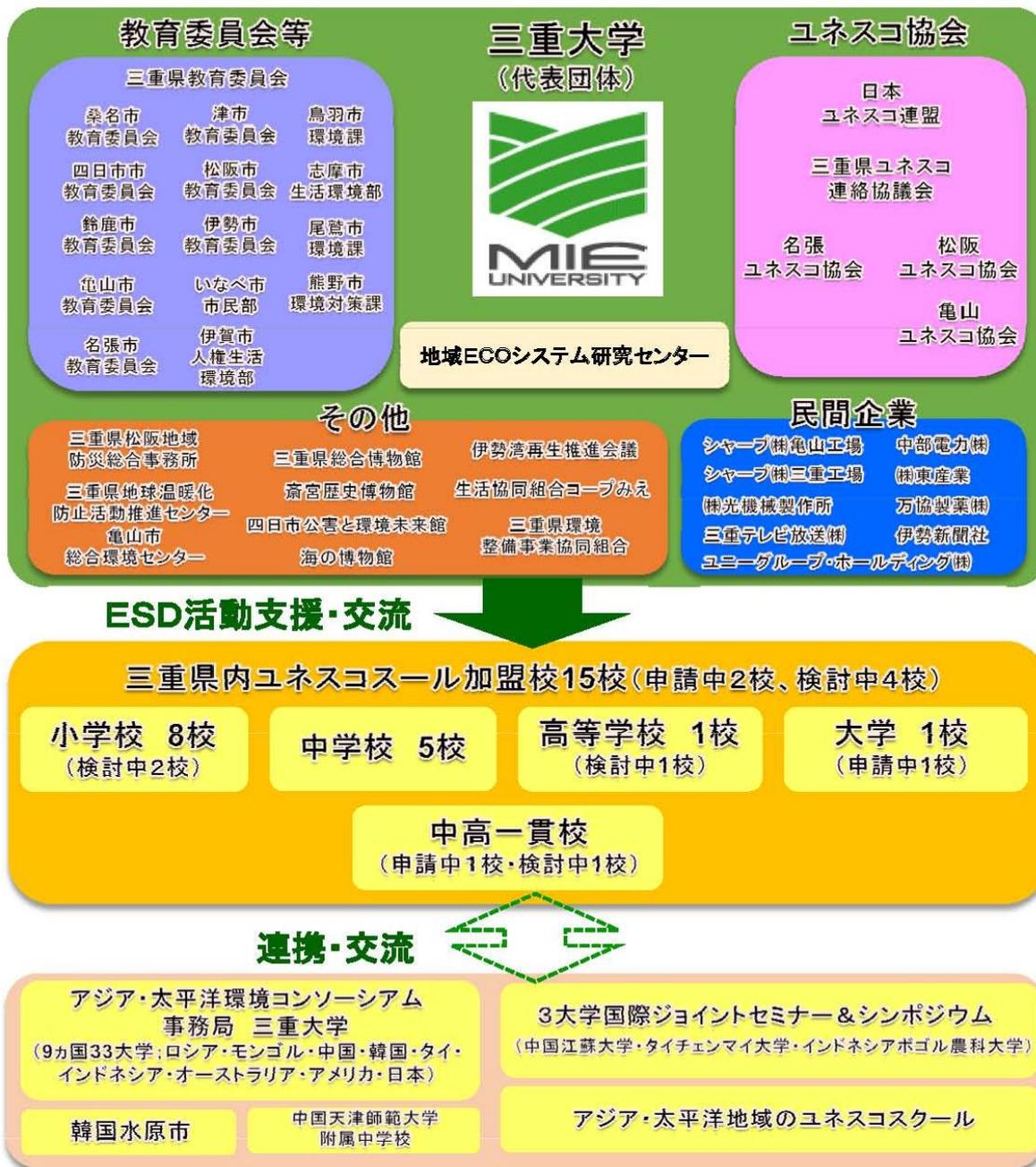
平成27年度より、「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」事務局を三重大学地域ECOシステム研究センターに置き、三重大学ユネスコスクール委員会や他のリサーチセンターと連携・協力し、人文科学、社会科学の幅広い視点からESDのプログラム開発や推進に取り組めるよう学内の基盤整備を進めると共に、コンソーシアムとして実施する事業及び団体との連携等の庶務を統括して執り行う。

また、ユネスコ活動について知見を有し、地域・学校におけるESDプログラムの構築や実践経験が豊富であり、地域・県域・全国のユネスコ協会関係者とのネットワークを持つ松阪ユネスコ協会会長 池村 進を事務局長兼コーディネーターとしてコンソーシアム事業を担当し、ESDプログラムの構築、コンソーシアムの連携の強化、国内外との交流・情報交換などを積極的に行う。

加えて、コンソーシアム構成団体より、ESDに関する知識や経験を有する人物の発掘及び推薦を受け、ESDコーディネーターとして任命し、事務局と連携して、県内各地域において、ESDの推進とユネスコスクールの支援のためのネットワーク構築を進める。

(参考資料)

## グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業 組織体制図



### 6. 補助事業期間

- ・ 補助事業の着手 (予定) 日 交付決定日
- ・ 補助事業の完了 (予定) 日 平成28年2月28日

※補助事業完了予定日は、新規採択の場合、最長で平成30年2月28日までとする。

## Ⅱ 事業内容

### 1. 事業推進の背景、課題等

※事業推進にあたっての背景、ESD推進にあたっての課題等について記述ください。

三重県内では、ユネスコスクールが4市（津市、鈴鹿市、名張市、熊野市）の小学校8校（平成26年度に統廃合により1校減）、中学校5校、高等学校1校、大学1校（三重大学）の15校が登録している。（現在、津市の中高一貫校及び四日市市の大学が登録申請中、亀山市の小学校2校、松阪市の中高一貫校及び四日市市の高校が検討中である。）特に、名張市の小中学校では、名張ユネスコ協会と韓国水原市のユネスコ協会との連携により、両市の小中学校と絵の交換活動を30年以上継続しており、また、毎年水原市で開催される青少年環境フォーラムにも中学生が参加している。津市の三重大学教育学部附属中学校では、中国天津師範大学附属中学校との国際交流を毎年行っており、ブラジルなど外国人比率が高い鈴鹿市の小中学校では、市内の外国人との協働による祭りなどの文化活動、熊野市の高校では、ユネスコ世界遺産の熊野古道の文化遺産を世界にアピールするため、英語によるガイドを努めるなど、多様なユネスコ活動を行っている。

一方、南海トラフによる巨大地震が最も懸念される三重県において、防災教育は大変重要なESDの推進課題となっている。幸い、三重大学は、三重県内の防災拠点として、平成21年度から三重さきもり塾を開設し、地域の防災リーダーの育成や命を守るための防災訓練などを積極的に行っている。また、再生可能エネルギーなどを視野に入れた創エネ・蓄エネ・省エネなどのエネルギー教育も急務となっている。伊勢湾に面している三重県は、生物多様性の宝庫である松名瀬干潟、里海、海女文化が盛んな地域でもあり、韓国済州島の海女との連携による海女文化のユネスコ世界遺産の登録にも積極的に取り組んでいる。海の自然環境（生物多様性保全）を守りながら海女文化の国際交流を図るなど、多様な活動を海女や海の博物館、三重県立総合博物館、斎宮歴史博物館、地元のメディア、企業、海外との連携によって行っている。地域に根ざし、国際的な視野を備え持つグローバル人材の育成のためのESDの推進が必要不可欠となっている。

### 2. 事業の目的

**本事業の目的は次の3点に力点を置く。**

- (1) 既存の三重県内の4市の15校のユネスコスクールを拠点としながら、三重県内の14の全市へのユネスコスクールの拡大を図る。
- (2) 環境・文化・地域の国際化を図る充実した活動内容を活かす、産官学民との協働体「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」を形成し、地域で活躍する人材を育成する。
- (3) 地域に根ざし、国際的な視点を持ったグローバル人材育成のために、海外、特にアジア・太平洋諸国との連携を図るべく、「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」を発展させた国際連携事業を展開する。

### 3. 事業の内容

#### (1) 事業の全体構想（3か年計画）

※事業の各活動についての実施時期も含め、できるだけ具体的に明記ください。

##### ①国内外のユネスコスクールとの交流

(A)三重県内15校のユネスコスクールの交流機会を創出するために、「三重ユネスコスクール研修会・シンポジウム」を毎年1回開催し、各学校で行っているユネスコスクール活動の情報共有を図る。また、ユネスコスクール全国大会へ積極的に参加し、他地域のユネスコスクール活動の長所から学び、ノウハウを共有し、各々のユネスコスクール活動を発展させる。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(B)ユネスコスクールネットワーク(ASPNet)及びユネスコスクール大学間ネットワーク(ASPUnivNet)との緊密な連携によって、三重県のみならず全国的なユネスコスクール活動の拡大や質的向上を図る。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(C)自然環境と生物、人間との関わりを学びの場とするモデル地域を設定し(松阪市の松名瀬干潟)、三重県・松阪市・松阪ユネスコ協会との連携及び、トヨタ自動車(株)及び伊勢新聞社の支援を得て、生物多様性に関連したESDプログラムを実施する(平成26年度・平成27年度)。

本事業の最終年度に、ラムサール条約の登録を目指す。(平成28年度)

(D)三重県鳥羽市の離島へのエネルギー供給のため、答志島から神島へ海底ケーブルによる電力供給の仕組み、風力発電、太陽光発電など実践的エネルギー教育について、中部電力との協働でESDプログラムを実施する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(E)海女文化を学びの場とするモデル地域を設定し(鳥羽市及び志摩市)、海の博物館及び三重県総合博物館、斎宮歴史博物館との連携による海女文化のESDプログラムを構築し、実施する。

(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(F)文化と産業を学びの場とするモデル地域を設定し(亀山市関宿)、亀山ユネスコ協会と連携し、総合的な教育プログラムを実施する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(G)平成26年11月に名古屋市で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」のパートナーシップ事業として、三重大学が中心となって開催した『ESD in 三重2014』において、国際理解(交流)他のESDプログラムを実施した。特に、三重大学の練習船「勢水丸」(総トン数318トン、国際トン数419トン)を用いた海洋生物多様性学習に国内外のユネスコスクールの学生・生徒約200名が参加し、三重大学ユネスコスクール学生委員会がファシリテーターとして関わることにより、国内外の小中高校生とのコミュニケーションを図った。(平成26年11月)

(H)ユネスコ世界遺産の「熊野古道」の歴史、文化を知るESDプログラムを構築し、実施する。特に、熊野市のユネスコスクールの木本高校が実施している英語によるガイド活動の充実を図り、グローバル人材育成のグッド・プラクティスとして発展させる。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(I)津市のユネスコスクールの三重大学教育学部附属中学校が毎年実施している、中国天津師範大学附属中学校との国際理解(教育)プログラムを発展させ、グローバル人材育成の有効なツールとして活性化する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(J)名張市の9校のユネスコスクールと名張ユネスコ協会の協力を得て、韓国水原市ユネスコ協会との連携によって毎年実施している、絵の国際交流展示会をESDプログラムとして発展させ、実施する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(K)韓国水原市が毎年実施している「日韓青少年環境フォーラム」に、県内のユネスコスクールが積極的に参加し、国際理解(交流)の仕組みを構築し、運営する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(L)三重県内唯一のユネスコスクール大学の三重大学が中心となって、中国江蘇大学・タイチェンマイ大学・インドネシアボゴル農科大学との連携で毎年開催する「3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム」に、三重大学ユネスコスクール学生委員会の学生を多数参加させ、地域に根ざし、世界に通用するグローバル人材を育成する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(M)三重大学の留学生をユネスコスクール学生委員会へ加入させ、三重県の環境や文化遺産などについて多言語の資料を作成し、世界へ情報発信する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

## ②ユネスコスクール以外の学校でのESD活動の実施

(A)松阪市の松名瀬干潟は、渡り鳥の渡来地や動植物の豊富な干潟である。申請時(平成26年4月)に、松阪市のユネスコスクールはゼロであるが、松阪市松名瀬干潟をモデル地域とする、陸と海での生物多様性保全活動を行い、三重県・松阪市・松阪ユネスコ協会との連携によって松阪市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(B)亀山市関宿は、日本の歴史や文化を知る貴重な文化遺産を有する地域であるが、申請時(平成26年4月)に、亀山市内の小中高校でのユネスコスクールはゼロである。亀山市教育委員会及び亀山ユネスコ協会と連携しながら、亀山市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(C)海女文化及び里海など、文化遺産と海の生物多様性保全のESDプログラムが期待されている鳥羽市と志摩市の小中高校において、申請時(平成26年4月)に、ユネスコスクールはゼロであるが、海の博物館及び三重県総合博物館、斎宮歴史博物館と連携しながら、鳥羽市と志摩市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(D)三重大学で毎年開催される「三重大学ユネスコスクール研修会・シンポジウム」に、ユネスコスクール登録を目指す小中高校の教員や学生を招聘し、ユネスコスクール活動について理解させ、それぞれの学校の特色を活かしたユネスコスクール活動がスタートできるようコーディネーターが中心となって支援する。(平成26年度・平成27年度・平成28年度)

(E)平成26年11月に名古屋市で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」のパートナーシップ事業として、三重大学が中心となって開催した『ESD in 三重2014』において、国際理解(交流)他のESDプログラムを実施した。特に、海洋生物多様性学習に国内外のユネスコスクールの学生・生徒約200名が参加し、三重大学ユネスコスクール学生委員会がファシリテーターとして関わることにより、国内外の小中高校生とのコミュニケーションを図った。(平成26年11月)

## ③社会教育施設、青少年教育施設等との連携

(A)三重県内の企業(株)光機械製作所・万協製菓(株)・(株)中部電力・シャープ(株)亀山工場・シャープ(株)三重工場・(株)東産業)がCSR活動として

地域のNPOや団体との協働で実施しているエネルギー環境教育を中心とするESDプログラムを実施する。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）

(B)海の博物館を中心とする海女文化、三重県総合博物館を中心とする陸や海的环境と生物（人間）との営み、斎宮歴史博物館を中心とする歴史文化、公益法人三重県環境保全事業団（三重県地球温暖化防止活動推進センター）を中心とする地球温暖化防止、NPO法人亀山市総合環境研究センター、亀山ユネスコ協会、松阪ユネスコ協会、名張ユネスコ協会を中心とする文化財保全、企業等との連携による協働体「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」を構築する。コンソーシアムを通じて、環境、エネルギー、防災、生物多様性保全、地球温暖化防止、国際理解（交流）、文化財保全などのESD教育プログラムを実施すると同時に、ユネスコスクール及びユネスコスクールへ登録準備を行っている三重県内全市の小中高校を支援する。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）

#### **④コンソーシアムの活動で得られた成果を地域の内外で共有するための「成果発表会」（年1回程度）等**

(A)毎年2月頃、三重大学を拠点に「三重ユネスコスクール研修会／シンポジウム」を開催する。三重大学は、2009年8月に三重県唯一の大学としてユネスコスクールに登録し、毎年1月～2月に成果発表会を開催している。特に、2010年10月の国連生物多様性第10回締約国会議(COP10)のパートナーシップ事業として『COP 10 in 三重』を企画、開催し、アジア・太平洋地域から200名の小中高大学生を招聘し、ユネスコスクール活動を行った。毎年の成果発表会には、文部科学省・公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)・社団法人日本ユネスコ協会連盟、三重大学と国際交流協定を結んでいる諸大学の関係者を基調講演や記念講演、アドバイザーとして招聘し、他県や日本全国、海外との交流を図ってきたそのノウハウを活かし、本事業を進める。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）

成果発表には、次の項目を含める。

- ・国内外のユネスコスクールとの交流の事例発表
- ・ユネスコスクール以外の学校でのESD活動の実施事例発表
- ・社会教育施設、青少年教育施設等との連携した事例発表
- ・先進的な取組をする国内外のユネスコスクールの活動実績をリサーチして発表
- ・最終年度(平成28年度)は、3年間の成果と次年度以降の実施計画について発表

(B)毎年2月に、和文と英文（概要版）の成果報告書を発行する。

(C)成果については、随時HPへアップする。（英文・和文）

#### **⑤都道府県教育委員会との連携**

※ 都道府県教育委員会がコンソーシアムの構成団体でない場合でも行う。

(A)三重県教育委員会は、産官学民との協働体（三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム）のメンバーである。なお、本事業の最終年度（平成28年度）には、三重県内自治体の14の全市の小中高校からのユネスコスクール登録を目指していることから、各自治体の教育委員会との連携も図る。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）

(B)当初企画時（H26.4）に申請手続き中であった津市のセントヨゼフ女子学園（中高一貫校）が、ユネスコスクールに登録(H27.1)された。今後、高校のユネスコスクール登録が増えることが予想されることから三重県教育委員会との密接な連携はますます重要視される。（平成26年度・平成27年度・平成28年度）

## (2) 平成27年度事業の内容

※(1) 事業の全体構想(3か年計画)の中での位置付け、事業の各活動についての実施時期も含め、できるだけ具体的に明記ください。

※2年目の団体については、1年目の実績や成果、課題等を踏まえ、記入ください。

平成27年度は、コンソーシアム団体との連携を一層緊密にする。特に、県・市教育委員会との連携を進め、ユネスコスクール登録のない市において、ESDやユネスコスクールの意義、登録に必要な事項についての理解を深める機会を設ける。

これらにより、ユネスコスクールへの登録のない市でのユネスコスクールへの登録・申請を目指す。なかでも、四日市市、亀山市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市を重点活動地域として事業を推進する。また、近隣のコンソーシアム団体と緊密な連携を図ることで、「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム事業」のさらなる発展を図る。

ユネスコスクール及びコンソーシアム構成団体との連携による交流・活動は引き続き実施する。

### ①国内外のユネスコスクールとの交流

(A)三重県内15校のユネスコスクールの交流機会を創出するために、「三重大学ユネスコスクール研修会・シンポジウム」を平成28年1月に開催し、各学校で行っているユネスコスクール活動の情報共有を図る。また、海外の先進事例や地域特性の事例などを交流材料とするために、海外の交流団体(韓国、中国、タイ、インドネシア、アメリカ、ロシアなど)とインターネット上での情報交換を行い、今後のユネスコスクールの拡大につなげていく。

(B)ユネスコスクールネットワーク(ASPNet)及びユネスコスクール大学間ネットワーク(ASPUnivNet)との連携を強化し、三重県のみならず、全国的なユネスコスクール活動の拡大や質的向上を図るための協力体制を整え、協力する。

(C)〔生物多様性〕：準備7月と10月、実施8月と11月

ラムサール条約の登録を目指すため、松名瀬干潟における生物多様性に関連したESDプログラムを、三重大学、県内ユネスコスクール加盟校、三重県、松阪市、松阪ユネスコ協会、トヨタ自動車及び伊勢新聞を含めた企業など産官学民連携により8月と11月に実施し、登録への機運を醸成する。

(D)〔エネルギー学習〕／〔気候変動〕：検討開始5月～、実施11月

県内のユネスコスクールなどを対象に、電力供給の仕組み、再生可能エネルギーなど実践的エネルギー教育のESDプログラムを、中部電力など企業と連携して構築し、実施する

(E)〔世界遺産や地域の文化財等に関する学習〕／〔国際理解学習〕：検討6月～三重オリジナルの海女文化をテーマに、鳥羽市及び志摩市をモデル地域として設定し、平成26年度に海の博物館及び三重県総合博物館、斎宮歴史博物館と連携して構築・実施したESDプログラムのさらなる見直しを図り、ESDプログラムとして平準化する。

(F)〔環境学習〕／〔国際理解学習〕／〔防災学習〕：検討5月～

文化と産業をテーマに、亀山市関宿をモデル地域として設定し、平成26年度に亀山ユネスコ協会、「NPO関宿」、亀山市総合環境研究センターと連携して構築したESDプログラムのさらなる見直しを図り、亀山市及び亀山市教育委員会とも連携し、総合的な教育プログラムとして体系化する。

(G)〔環境学習〕／〔国際理解学習〕／〔生物多様性〕／〔エネルギー学習〕／〔気候変動〕／〔防災学習〕／〔世界遺産や地域の文化財等に関する学習〕：準備4月～6月、実施7～9月

平成26年度に三重県内小中高校生及び支援学校の生徒を対象に実施した『環境コンテスト』を、平成27年度も継続して実施し、小中高校及び支援学校へのESDに関する意識啓発を行うと共に日頃の取組みを発表する機会を提供し、交流を図る。

(H)〔世界遺産や地域の文化財等に関する学習〕：検討5月～、実施8月～  
ユネスコ世界遺産の「熊野古道」の歴史、文化をテーマに、ユネスコスクールである木本高校（熊野市）と連携し、同校が実施している英語によるガイド活動をベースに充実・発展させ、ESDプログラムとして構築し、実施する。

(I)〔国際理解学習〕：プログラム見直し4月～  
津市のユネスコスクールである三重大学教育学部附属中学校が実施している、中国天津師範大学附属中学校との国際理解（教育）プログラムの発展のためのさらなる見直しと再構築を行う。

(J)〔国際理解学習〕：検討継続～  
名張市内のユネスコスクール（8校）が名張ユネスコ協会の協力を得て、韓国水原市のユネスコスクールと実施している、絵の国際交流展示会を発展させて、ESDプログラムとして構築することについて、継続して検討を行う。

(K)〔国際理解学習〕：検討継続～  
韓国水原市が毎年実施している「日韓青少年水環境フォーラム」への三重県内のユネスコスクールの参加を段階的に促すと共に、国際理解（交流）の仕組みづくりについて継続して検討を行う。

(L)〔国際理解学習〕：検討開始6月～、実施11月～3月  
三重大学・中国江蘇大学・タイチェンマイ大学との連携し国際交流を兼ねた論文発表会を目的に開催する「3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム」において、平成27年度も引き続き、三重大学ユネスコスクール学生委員会の学生を参加させることを検討する。

(M)〔その他関連する学習〕：呼掛け開始6月～準備7月から10月、実施11月  
三重大学の留学生に対して、ユネスコスクール学生委員会への加入の呼び掛けを行い、三重県の環境や文化遺産、ユネスコスクール活動、ESDに関する情報などについて多言語の資料を作成し、ホームページを通じて世界に発信する。

## ②ユネスコスクール以外の学校でのESD活動の実施

ユネスコスクール以外の学校に対しても、「①国内外のユネスコスクールとの交流」で実施（記載した）するESD活動を基本に展開する。平成27年度は地域との連携を緊密にし、現在ユネスコスクール登録を進めつつある四日市市、亀山市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市を重点活動地域として実施をする。

(A)〔国際理解学習〕／〔環境学習〕：準備7月～10月、実施11月  
松阪市松名瀬干潟をモデル地域とする、陸と海での生物多様性保全活動と生物多様性に関連したESDプログラムを三重県・松阪市・松阪ユネスコ協会・企業との連携により実施し、松阪市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。

(B)〔環境学習〕／〔国際理解学習〕／〔防災学習〕：プログラム構築5月～  
ユネスコスクール登録を目指す亀山市内の小学校をモデルケースに、亀山市教育委員会及び亀山ユネスコ協会、「NPO関宿」、亀山市総合環境研究センターと連携して各校のESDプログラムの充実を図り、亀山市内の小中高校でのユネスコ

スクール登録を促進する。

(C)〔世界遺産や地域の文化財等に関する学習〕／〔国際理解学習〕

：体制整備8月～

海女文化及び里海など、文化遺産と海の生物多様性保全をテーマとするESDプログラムを、海の博物館、三重県総合博物館及び斎宮歴史博物館との連携により、鳥羽市と志摩市で行い、鳥羽市と志摩市内の小中高校でのユネスコスクール登録を目指す。

(D)〔環境学習〕／〔国際理解学習〕／〔生物多様性〕／〔エネルギー学習〕／〔気候変動〕／〔防災学習〕／〔世界遺産や地域の文化財等に関する学習〕：準備10月～、実施28年1月

三重大学で毎年開催される「三重大学ユネスコスクール研修会・シンポジウム」にユネスコスクール登録を目指す小中高校の教員や学生を招聘し、ユネスコスクール活動について理解を深め、それぞれの学校の特色を活かしたユネスコスクール活動がスタートできるようコーディネーターが中心となって支援する。

(E)〔環境学習〕／〔国際理解学習〕／〔生物多様性〕／〔エネルギー学習〕／〔気候変動〕／〔防災学習〕／〔世界遺産や地域の文化財等に関する学習〕／〔その他関連する学習〕：準備4月～6月、実施7～9月

平成26年度に三重県内小中高校生及び支援学校の児童・生徒を対象に実施した『環境コンテスト』を、平成27年度も継続して実施し、小中高校及び支援学校へのESDに関する意識啓発を行うと共に日頃の取組みを発表する機会を提供し、交流を図る。

### ③社会教育施設、青少年教育施設等との連携

社会教育施設等との連携は「②ユネスコスクール以外の学校でのESD活動の実施」で実施するESD活動を推進するために、引き続きユネスコスクール活動、ESDプログラムとしての連携先として社会教育施設に加え、産業界（企業）と連携したESDプログラムの構築を行う

(A)産業界との連携の強化：

三重県内の企業（（株）光機械製作所・万協製薬（株）・（株）東産業・（株）中部電力・シャープ（株）亀山工場・シャープ（株）三重工場）がCSR活動として実施できるエネルギー環境教育を中心とするESDプログラムの検討を継続して行い、実施体制が整った企業において試行的に実施する。

(B)社会教育施設等との支援体制の構築：

海の博物館、三重県総合博物館、斎宮歴史博物館、四日市公害と環境未来館、公益法人三重県環境保全事業団（三重県地球温暖化防止活動推進センター）、NPO法人亀山市総合環境研究センター、亀山ユネスコ協会、松阪ユネスコ協会、名張ユネスコ協会と企業等との連携により創設した協働体「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」を基盤とし、ユネスコスクール及びユネスコスクールへ登録準備を行っている三重県内全市の小中高校のESD教育プログラムの支援について検討を開始する。

(C)社会教育施設等との連携：

平成27年3月21日に開館した四日市公害と環境未来館との連携により、公開講座を実施する。四日市公害を知らない小・中・高・大学生及び一般に対して、四日市公害の過去・現在・未来について学習することにより、環境学習・エネルギー学習・生物多様性等についての理解を深めることにより、四日市市でのユネスコスクール登録を目指す。

#### ④コンソーシアムの活動で得られた成果を地域の内外で居有するための「成果発表会」（年1回程度）等

(A)平成28年1月三重大学を拠点に「三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム」を開催して、平成27年度の成果発表を行う。

成果発表には、次の項目を含める。

- ・国内外のユネスコスクールとの交流の事例発表
- ・ユネスコスクール以外の学校でのESD活動の実施事例発表
- ・社会教育施設、青少年教育施設等との連携した事例発表
- ・先進的な取組をする国内外のユネスコスクールの活動実績をリサーチして発表

(B)和文と英文の成果報告書を発行する（平成28年2月頃）。

(C)活動の成果について、三重大学のホームページ内に開設された本取組の成果を公表するサイトにて随時公開する。（英文・和文）

#### ⑤都道府県教育委員会との連携

(A)三重県教育委員会は、産官学民の協働体「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」のメンバーとして構成されており、本取組に関しても連携した事業を展開する。なお、本事業の最終年度（平成28年度）には、三重県内自治体の14の全市の小中高校からのユネスコスクール登録を目指しているため、中間年である平成27年度はさらに三重県教育委員会と緊密に連携し、ユネスコスクールの登録校がない県内各市の教育委員会へのユネスコスクール及びESDに関する情報の周知・広報を連携して行い、意識を喚起する。

(B)三重県では、少子高齢化に加えて、若者の都市への流出に歯止めがかからず、持続可能な地域づくりにおける教育の果たす役割に期待がかかっている。今後、小・中・高・大学が連携して持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育（ESD）を推進していくことについて、県域のパートナーである三重県教育委員会との密接な連携がますます重要となっている。

#### 4. 事業実施体制と各構成団体の役割・活動内容（3か年）

構成団体名	役割・活動内容
<p>国立大学三重大学</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業の統括</li> <li>・ ESDコーディネーター設置</li> <li>・ 産官学民との協働体「<b>三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム</b>」の創設・運営・管理</li> <li>・ 『ESD in 三重 2014』の実施（平成26年11月）</li> <li>・ 三重県内の全市でのユネスコスクールの拡大・連携交流</li> <li>・ ユネスコスクールモデル事業（松名瀬干潟／亀山市関宿／鳥羽市・志摩市の海女文化）の展開</li> <li>・ グローバル人材育成のESDプログラムの開発・運営</li> <li>・ アジア諸国との国際連携事業の展開</li> <li>・ 成果報告会の開催（年1回）</li> <li>・ 報告書作成（和文・英文）</li> <li>・ HPの構築・運営（和文・英文）</li> </ul>
<p><b>* 県・市教育委員会等</b></p> <p>三重県教育委員会  桑名市教育委員会  鈴鹿市教育委員会  松阪市教育委員会  名張市教育委員会  津市教育委員会  四日市市教育委員会  亀山市教育委員会  伊勢市教育委員会  いなべ市  四日市市  亀山市  伊賀市  伊勢市  鳥羽市  志摩市  尾鷲市  熊野市</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三重県内の全市でのユネスコスクールの拡大・質的向上の全面的支援</li> <li>・ ユネスコスクールモデル事業（松名瀬干潟／亀山市関宿／鳥羽市・志摩市の海女文化）の全面的支援</li> <li>・ グローバル人材育成のESDプログラムへの全面的支援</li> </ul>
<p><b>* ユネスコ協会等</b></p> <p>日本ユネスコ連盟  三重県ユネスコ連絡協議会  亀山ユネスコ協会  名張ユネスコ協会  松阪ユネスコ協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユネスコスクールモデル事業（松名瀬干潟／亀山市関宿／鳥羽市・志摩市の海女文化）の全面的協力</li> <li>・ グローバル人材育成のESDプログラムへの全面的協力</li> </ul>

<p><b>* その他A</b>  三重県総合博物館  海の博物館  齋宮歴史博物館  四日市公害と環境未来館</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコスクールモデル事業（松名瀬干潟／亀山市関宿／鳥羽市・志摩市の海女文化／四日市公害）の全面的協力</li> <li>・学びの場の提供／学芸員の派遣／情報提供</li> </ul>
<p><b>* その他B</b>  三重県環境保全事業団  （三重県地球温暖化防止活動推進センター）  三重県松阪地域防災総合事務所  三重県環境整備事業共同組合  伊勢湾再生推進会議  生活協同組合コープみえ  亀山市総合環境研究センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化防止教育プログラムの全面的協力</li> <li>・地球温暖化防止推進の派遣</li> <li>・省エネ活動の全面的協力</li> <li>・ユネスコスクールモデル事業（松名瀬干潟／鳥羽市・志摩市の海女文化）の全面的支援</li> <li>・海の生物多様性ESDプログラムの開発・実施の全面的支援</li> <li>・ユネスコスクールモデル事業（亀山市関宿）の全面的協力</li> <li>・里山の生物多様性ESDプログラムの開発・実施の全面的支援</li> </ul>
<p><b>* 民間企業A</b>  シャープ（株）亀山工場  シャープ（株）三重工場  中部電力（株）  ユニグループ・ホールディングス（株）  万協製薬（株）  （株）光機械製作所  （株）東産業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーESDプログラムの開発・実施の全面的協力</li> <li>・水環境（海）ESDプログラムの開発・実施の全面的協力</li> <li>・講師派遣</li> </ul>
<p><b>* 民間企業B</b>  三重テレビ放送（株）  伊勢新聞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコスクール活動の報道</li> </ul>
<p><b>* 海外</b>  アジア・太平洋環境コンソーシアム  3大学国際ジョイントセミナー&amp;シンポジウム  アジア・太平洋地域のユネスコスクール  韓国水原市  中国天津師範大学附属中学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『ESD in 三重 2014』へ参加（平成26年11月）</li> <li>・ユネスコスクールの国際連携・交流の活性化</li> <li>・英語によるESDプログラム開発へ全面的協力</li> <li>・成果発表会へ参加</li> <li>・多言語によるHPの構築・運営</li> </ul>

## 5. 事業終了後の方策

※補助事業終了後もコンソーシアムの機能を継続するための計画（財政的措置も含む）についても併せて記入ください。

### （1）業務の継続性

- ① 代表団体の三重大学は、産官学民との連携による「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」の管理責任を持って継続する。コーディネーターの継続雇用を行う。
- ② ユネスコスクール加盟校を含め、それ以外の学校においてESDの推進を可能とするため、補助事業の3年間で、学習プログラムなどソフト面のコンテンツを完成させる。また、大学、国内外の自治体、企業との連携による、地域に根ざし、世界に通用するグローバル人材を育成する。
- ③ 海外のユネスコスクールとの国際連携・交流を積極的に展開し、本事業を国内に留まらず国際的に発展できるよう、本コンソーシアムに海外のメンバーを運営委員として加え、積極的に展開する。
- ④ コミュニケーション・ツールとして、HPを和文と英文で充実させ、リアルタイムに情報伝達を図ることで、本事業の継続的発展を図る。

### （2）事業終了後の財政的措置

- ① 代表団体として、継続的にユネスコスクール活動が継続できるよう、既存の三重大学ユネスコスクール委員会の予算枠に特別財政措置を講じる。
- ② 企業（株）光機械製作所、万協製薬（株）、（株）東産業、（株）中部電力、シャープ（株）亀山工場・シャープ（株）三重工場等と協議し、企業のCSR事業の一環として、特に、エネルギー教育、生物多様性教育、防災教育関連のESDプログラムが継続できるように財政的措置を講じる。
- ③ 三重県及び自治体と協議し、本事業終了後においても、ユネスコスクール活動が継続できるように、重点プロジェクトとして位置づけ、財政的措置を講じる。
- ④ 公益法人三重県環境保全事業団（三重県地球温暖化防止活動推進センター）及びNPO法人亀山市総合環境研究センターの重点プロジェクトと位置づけ、特に、地球温暖化防止、文化などのESDプログラムが継続できるように財政的措置を講じる。
- ⑤ 海の博物館、三重県総合博物館、斎宮歴史博物館等との連携によって、重要イベントとして年間行事に組み込み、継続させる。
- ⑥ アジア諸国のユネスコ委員会と協議し、国際ファンドを獲得することで本事業終了後においても継続的に実施できるような財政的措置を講じる。

## 6. 事業の実施により期待される成果

次の4点が期待される成果である。（参考資料；グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業概念図参照）

- （1）既存の三重県内の4市の15校のユネスコスクールを拠点としながら、三重県内の14の全市へのユネスコスクールの拡大及び連携・交流による質的向上が期待できる。
- （2）環境・文化・地域の国際化を図る充実した活動内容を活かす、産官学民との協働体「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」を形成し、地域で活躍する人材育成が期待できる。
- （3）海外、特にアジア・太平洋諸国との連携を図るべく産官学民との協働体「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」を発展させ、国際連携事業を展開することで、地域に根ざし世界に通用するグローバル人材育成が期待できる。

(4) 持続発展教育(ESD)に関するユネスコ世界会議のパートナーシップ事業として三重大学と産官学民との連携による、アジア諸国のユネスコスクール関連の子どもや青少年による『ESD in 三重 2014』(平成26年11月)及び『「ESD in 三重2014」国際会議』(平成26年12月)を実施した。これらの活動により、三重県内のユネスコスクール加盟校とそれ以外の学校とのユネスコスクール活動の連携・交流が活性化され、ESDの量質共の飛躍が見込まれる。

このような諸成果のシナジー効果により、最終年度には三重県が国内外に誇れるユネスコスクールの先進地域として高く評価されることが多いに期待できる。

## 7. 本事業実施に対する事後評価の方針・予定・体制

### (1) 三重大学の管理体制(PDCAサイクル)の適用

三重大学は、平成19年11月に全国初となる全学一括のISO14001認証を取得していることから、すでに環境マネジメントシステム(EMS)が確実に適用できている。その管理体制(PDCAサイクル)を適用する。年度毎に、計画(PLAN)、実施(DO)、評価(CHECK)、見直し改善(ACT)で運用を進める。特に、評価において、内部評価だけでなく、産官学民との協働体「**三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム**」による外部評価も年度毎に実施をする。内部評価及び外部評価は、HPなどを通じて公開する。

### (2) 年度評価及び事業後の統括評価

年度評価の実施時期は、毎年度末(2~3月)に行い、最終年度(平成28年度)は平成29年1月頃として、補助事業全体の総括評価を実施する。

## 8. その他

○市町村等による同種及び類似事業の実施実績

※実施実績があれば、できるだけ具体的な実績を記入ください。

### (1) 『COP10 in 三重』の実施実績(平成22年10月)

三重県や市町が単独で行った同種及び類似事業の実施実績はない。しかし、本事業と同様に、三重大学が主体となって、三重県及び自治体(亀山市、鳥羽市)との連携で、同種の事業を行った実績はある。

平成22年10月に、愛知・名古屋で「国連生物多様性条約第19回締約国会議(COP10)」が開催されたが、三重大学が主体となってパートナーシップ事業として『COP10 in 三重』を企画し、三重県及び自治体(亀山市、鳥羽市)及び企業(シャープ(株) 亀山工場・中部電力(株))との連携によって実施した。

### (2) 『COP10 in 三重』の実施内容

アジア・太平洋環境コンソーシアムを9カ国(ロシア・モンゴル・中国・韓国・タイ・インドネシア・オーストラリア・アメリカ・日本)の33大学と結成し、内外の200名の小中高大学生(三重大学を含む三重県内のユネスコスクールの子ども、生徒、大学生及び以外の学校の学生)を対象に、平成22年10月11日から29日までに「アジア・太平洋子ども&ユース生物多様性伊勢湾環境会議」を実施した。

①10月14日から15日には、三重大学の練習船「勢水丸(318トン)」による伊勢湾洋上国際環境学習を実施した。(三重県・鳥羽市の協力)

また、亀山里山公園（みちくさ）、関宿、シャープ（株）亀山工場にて、里山の生物多様性学習、エネルギー教育、文化財保全教育を行った。（三重県・亀山市・シャープ（株）亀山工場・中部電力（株）の協力）

- ② 10月16日は、「アジア・太平洋大学環境コンソーシアム国際環境教育シンポジウム」を三重大学で開催した。
- ③ 10月17日は、生物多様性エクスカーションを、海の博物館、鳥羽水族館、ミキモト真珠島で行った。（三重県・鳥羽市の協力）
- ④ 10月18日は、「アジア・太平洋大学国際環境フォーラム」を、生物多様性交流フェア会場内名古屋学院大学大会場にて開催した。
- ⑤ 10月11日から29日には、名古屋国際会議場生物多様性交流フェア会場内（白鳥公園）に三重大学ブースを設置し、三重大学のESDプログラムを国内外へ大々的にアピールした。

アジア・太平洋地域から子どもや中高生、大学生の200名が國や文化の差を乗り越えて、生物多様性保全のために取組や様々な活動は、国内外のメディアを通じて世界に紹介された。特に、NHKの生放送や国連関連のメディアの取材、韓国や東南アジア各国のメディアに連日のように取り上げられ、『COP10 in 三重』の成果が高く評価された。

### （３）『COP10 in 三重』のファンド

平成20年度から22年度に文部科学省教育GP「三重大ブランドの環境人材養成プログラム」に採択され、3年間に約6,000万円のファンドが得られたことが大きい。さらに、公益財団三重県環境保全事業団（三重県地球温暖化防止活動推進センター）からは、250万円の支援の他に地球温暖化防止活動推進員の協力を得ることができた。

『COP10 in 三重』事業は、教育GPの最終年度の統括として実施されたので、教育GPの事後評価においても高く評価された。成果報告書は和文及び英文（概要版）でまとめられ、文部科学省に提出された。

### （４）『ESD in 三重2014』の実施実績（平成26年11月）

平成26年11月に、愛知・名古屋で「ESDユネスコ世界会議」が開催され、三重大学が主体となってパートナーシップ事業として『ESD in 三重2014』を企画し、三重県、松阪市、三重県総合博物館、斎宮歴史博物館、海の博物館との連携によって実施した。また、『ESD in 三重2014』の活動報告を世界会議の併催イベントである、交流セミナーにおいても発表した。

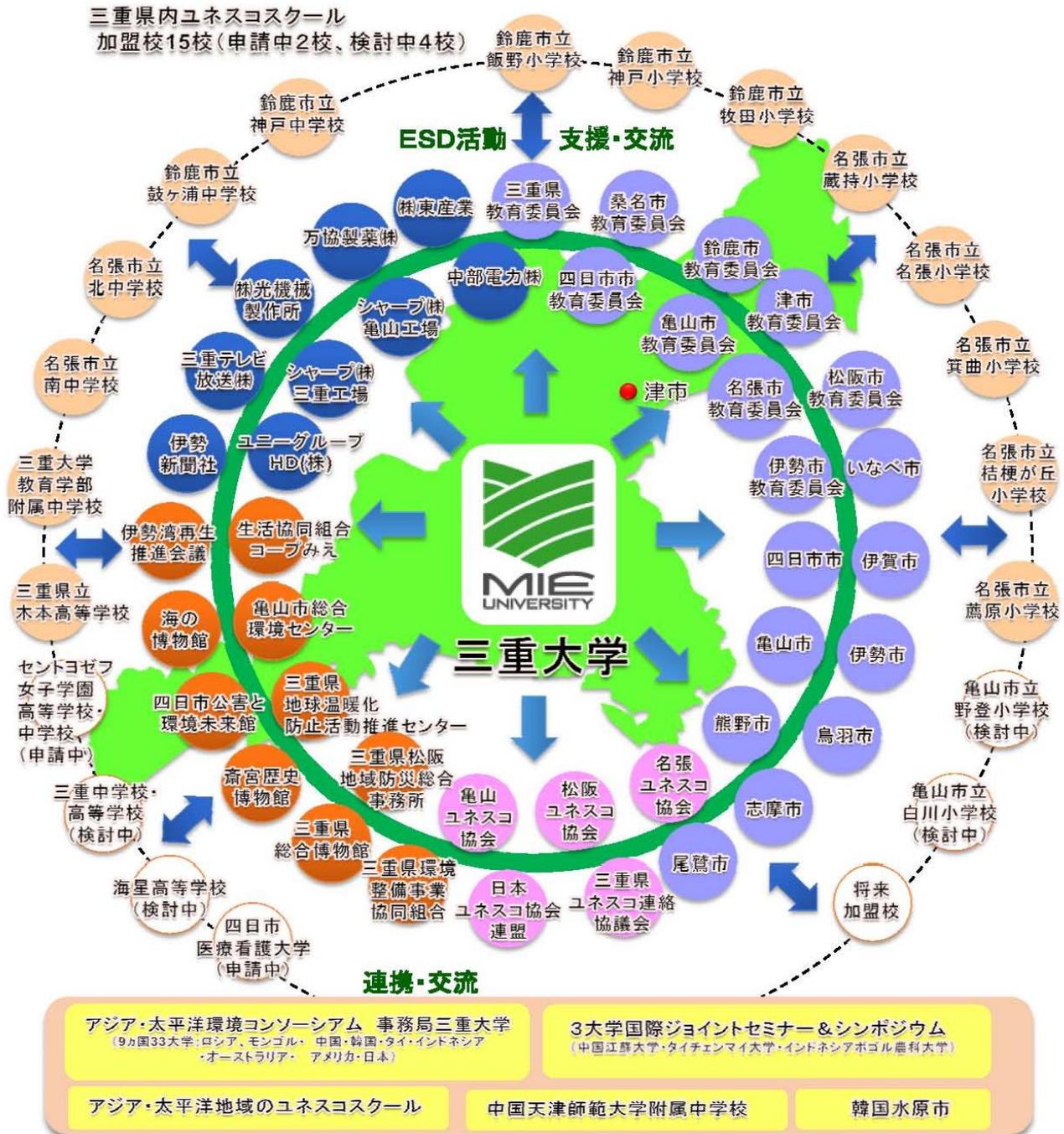
### （５）『ESD in 三重2014』の実施内容

平成26年11月7日から12日まで『ESD in 三重2014～アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース世界会議～』を実施した。日本・韓国・中国・アメリカをはじめ19カ国210名の中・高・大学生が参加し、ESDに関する学習・エクスカーションを行い、自ら体験し感じた事をユース宣言としてとりまとめ、発表した。

- ① 11月 7日：アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習  
（勢水丸、海の博物館、海女小屋）
- ② 11月 8日：ESDエクスカーション（松名瀬干潟、斎宮歴史博物館）
- ③ 11月 9日：ESDエクスカーション（三重県総合博物館、分科会）
- ④ 11月10日：アジア太平洋環境コンソーシアム国際シンポジウム（三重大学）
- ⑤ 11月12日：ESD交流セミナー（名古屋国際会議場）

(参考資料)

## グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業(将来イメージ)



概念図(平成29年2月以降)